

えんど久子県議らと共に大分県に要望

コロナ禍のタクシーに支援を

倒産を防ぐために

7月26日、タクシー労働者の組合である自交総連の皆さんが、大分県に対し「コロナ禍から県内タクシーの倒産を防ぎ労働者の雇用を守るための要望書」を提出しました。

日本共産党のえんど久子県議（別府市選出）と堤栄三県議（大分市選出）が同席しました。

借りたお金の返済が心配

タクシードライバーのみなさんは、年金だけでは生活できず、タクシーの収入を加えて暮らす方が多い状況です。

参加者は、「コロナ禍で収入が激減し、ドライバーを辞める人が多い」「社協の生活福祉資金などを借りた人が多い。年金もあり非課税ではないので返済しなければならず、返済を心配している」「タクシー事業者も経営が大変で、倒産を防ぎ雇用を守るために支援策の拡充をお願いしたい」などと、深刻な状況を訴えました。

県は減免などを国に要望と回答

大分県の担当者は「全国知事会を通して、生活福祉資金特例貸付の申請期限の延長や償還の減免要件の緩和や償還猶予制度の弾力的運用などを国に要望している」「地方税の減免は難しいが、税や保険料の減免などを国に要望している」などと話しました。



大分県商工観光労働部長に要望書を手渡す自交総連大分地方連合会の海老原昇委員長。 21. 7. 26. 大分県庁内にて

県として独自策を

えんど久子県議は、「別府市は売り上げが3割以上減ったホテル・旅館などの水道料金を減免している。同じような考え方で、県としてできることで支援すべきだ。今後とも地域経済に貢献いただくためにも、タクシー事業者やドライバーを守ることは大事だ」と、独自策や支援策の拡充を求めました。

みなさんの声を聞かせていただきながら、今後とも力をあわせてがんばります。

日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団
大分県議会議員 えんど久子

TEL・FAX 097-537-2344

No.54

2021.8.17.

残ったお米は 困っている人の食料支援に

米作ってメシ食えん

7月28日、農民連のみなさんは、米価下落の対策などを大分県に要望し、県議会に請願書を提出しました。堤栄三・えんど久子両県議が同席しました。

米価は下落を続け、かつての半値程度で大多数の農家は赤字。さらに、コロナ禍で外食が減り米が余って米価大暴落の不安がひろがっています。一方で、貧困が拡がり一日1食しか食べられないなどの深刻な状況があります。参加者は余った米を政府が買い上げ生活困窮者の食料支援にすることや、外国産米の輸入を減らすこと等を要望しました。

5年間で農家は4分の3に減った

県は、田んぼを畑地化して農家の所得を上げようとしています。参加者は「畑地化ばかりでなく、行政の責任で食糧確保をどうするかが大事だ」

「県下で5年間で25%も農家が減った。中山間地でも農業を続けられる支援策を」

「高齢化で農業ができなくなりタダで農地をあげると言われる。農家がなくなるのでは。危機的状況だ」などと口々に訴えました。

県の農林水産部長は、「水稲も大事で、米の生産コスト削減を行政も応援したい。みなさんの声を真摯に受け止めたい」などと答えました。



夏休み 子ども議会見学

8月3日、大分県議会の夏休み子ども議会見学で、小学生21人が保護者と共に委員会室・や議員控室などを探検し、議員と名刺交換しました。

本会議場では「県のプラスチックゴミへの取り組みは？」 「運動会の応援団長になりたいが、選挙に勝つ秘訣は？」 「学校には災害時用のヘルメットがないのはなぜ？」などの質問に議員が答えました。(写真)



県議会広報委員として、えんど久子県議は7月1日に日本文理大学で学生と交流。7月13日は県立芸術文化短大での議員出前講座に参加。「声をあげ力をあわせれば、地域や社会は少しずつ変えていける。ぜひ政治に関心を持ち、投票に行ってください」と学生たちに話しました。